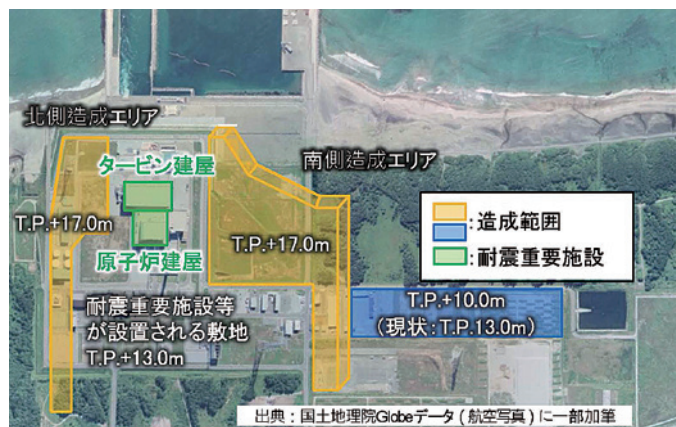


東通原子力発電所東北電力1号機 安全対策工事完了時期の公表時期の見直し



東北電力㈱(左奥:金澤代表取締役副社長)の説明



敷地造成計画(東北電力プレス文より)

8月18日、東北電力㈱は畑中 稔朗村長に対して、東通原子力発電所東北電力1号機における安全対策工事の完了時期について、本年9月を目指していた公表時期を2027年3月ごろに見直したことを説明しました。

東北電力㈱は、東北電力1号機の再稼働のため、2014年6月、原子力規制委員会に対して、新規規制基準適合性に係る審査の申請を行い、現在、同委員会において審査が進められています。

この見直しは、将来にわたって長期かつ安全・安心に運転していく観点から、原子力発電所に影響を及ぼすおそれのある最大規模の津波(基準津波:12.1m)は、敷地高さ(13.0m)を下回っているものの、敷地の一部を17.0mの高さまで造成し、基準津波に対する余裕を積み増しすることとしたため、基準津波の再評価、その結果を踏まえた、発生確率が極めて小さいものの、原子力発電所への影響が大きい津波(PRA津波)の対策や施設などの配置計画の再検討などに更なる期間が必要となったことによるものです。

畑中村長は東北電力に対し、敷地造成は安全・安心の観点からの判断であり評価すること、同工事の完了時期の公表が18か月先送りとなったことは遺憾であること、これ以上の見直しや遅延がないよう、東北電力㈱の総力を挙げて取り組むとともに確度の高い工程を示すこと、村民等に対する説明を行うことなどを求めました。

赤十字救援車「博愛号」配置



目録授与



配置された「博愛号」

8月22日、日本赤十字社青森県支部から赤十字救援車「博愛号」が配置されました。

配置された車両は、日産セレナ2000CC、4WD、8人乗りです。この博愛号は、赤十字活動はもちろんのこと、通常時の保健衛生・社会福祉活動、災害時や各種行事等の救護・救援車両として活用されます。末永く利活用させていただきます。